

第19回名古屋ビジネスセミナーを開催

●大学院経済学研究科

大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センターは、6月5日(木)、日本経済新聞社名古屋支社会議室において、第19回名古屋ビジネスセミナーを開催しました。今回は、小林益久松阪市副市長を講師として招き行われました。

同センターは、大学院経済学研究科と緊密に協力し、領域横断型の研究を開拓、その成果を内外の大学、研究機関

をはじめ、広く社会に還元することを任務としています。その一環として、地域に開かれた研究活動を推進するために、本学経済学部同窓会である社団法人キタン会と共同で「名古屋ビジネスセミナー」を開催しています。

セミナーでは、佐藤宣之国際経済政策研究センター教授の司会のもと、木村同センター長による開会あいさつに続いて、小林副市長による「『公募』副市長の冒険」と題した講演が行われました。

小林副市長は、元々は公務員ではなく、日米英の金融機関で勤務し、国債ストラテジストの第一人者として活躍、その後、松阪市副市長の公募に応じ、平成22年から副市長の職に就いています。講演では、「定説を疑う。」等の自身のモノの見方を紹介した後、松阪牛の存在がかえって松阪市のポテンシャルの発揮を邪魔しているという逆説的な見方を問題提起し、住民協議会を活用した「市民力の引き出し」、企業・大学との積極的な連携、国内外への輸出を目指す「環境観光都市」松阪モデル等々、松阪市の改革の取り組みを紹介しました。

参加者は終始熱心に聴き入り、セミナー後のアンケートにおいても、反響の高い講演であることがうかがえました。



講演する小林副市長